

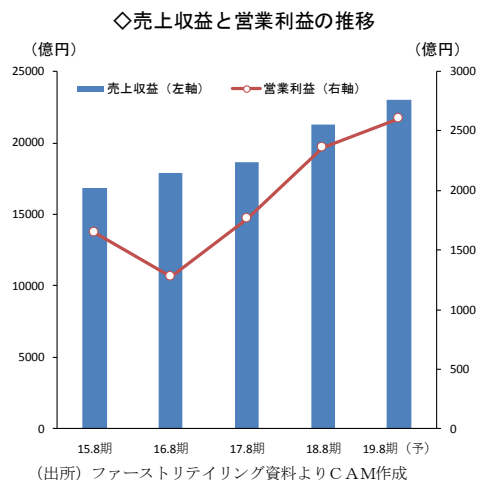
企業ニュース ファーストリテイリング

(東証1部: 9983) <https://www.fastretailing.com/jp/>

作成者: 荒木晶子

グレーターチャイナの成長加速に期待

国内外でユニクロやジーユーなどの衣料品専門店を展開している。19.8期・第3四半期末のユニクロの店舗数は、国内が2,173店、海外が1,351店。セグメント別の売上収益構成比は、国内ユニクロ事業38.5%、海外ユニクロ事業45.0%、ジーユー事業10.2%、グローバルブランド事業6.2%。その他0.1%。海外ユニクロは、グレーターチャイナ（中国大陸、香港、台湾）が高成長を続けており、業績をけん引している。グレーターチャイナにおいては、デジタルの活用による若年層顧客の取り込み、2級・3級都市など地方での認知度上昇、値引きの抑制や店舗作業の効率化による利益率の改善などの課題に取り組む、持続的な成長を目指す。



海外ユニクロとジーユーが業績をけん引

19.8期・第3四半期累計（9-5月）の連結業績は、売上収益が1兆8,229億円、前年同期比7%増、営業利益が2,477億円、同4%増。海外ユニクロとジーユーがけん引した。海外ユニクロは、グレーターチャイナや東南アジア・オセアニア地区での販売が好調だった。ジーユーは、品番数を絞り、商品構成を変更した効果で利益が回復した。粗利益率は、国内外のユニクロで動きの鈍い春夏商品の売価変更を早期に実施し、在庫処分を早めたことで悪化した。

19.8期の通期会社計画は、売上収益が2兆3,000億円、前期比8%増、営業利益が2,600億円、同10%増。通期計画に対する第3四半期までの進捗率は、売上収益が79%、営業利益が95%と好調な印象だが、会社はほぼ想定通りとコメントした。海外ユニクロは、グレーターチャイナや東南アジア・オセアニア地区が好業績を維持すると想定、欧米の苦戦をカバーして大幅な増収増益を見込む。国内ユニクロは、セールスの第4四半期後ろ倒しによる売上収益の回復や、値引き販売の減少による粗利益率の改善を想定している。

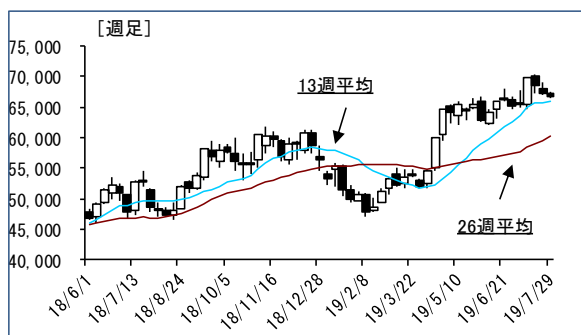
[株価動向・投資判断]

アジアを中心とした海外ユニクロの成長加速に注目したい。また、徹底した在庫管理による値引き販売の抑制で粗利益率が改善し、利益成長も期待できよう。

<9983 ファストリ 業績:IFRS>

[今期予想の配当金は発行会社予想]

	売上収益 百万円 (伸び率)	営業利益 百万円 (伸び率)	税引前利益 百万円 (伸び率)	当期利益 百万円 (伸び率)	1株利益 円	1株配当 円
17.8	1,861,917 (4)	176,414 (39)	193,398 (114)	119,280 (148)	1,169.7	350.00
18.8	2,130,060 (14)	236,212 (34)	242,678 (25)	154,811 (30)	1,517.7	440.00
19.8 予	2,300,000 (8)	260,000 (10)	260,000 (7)	165,000 (7)	1,616.8	480.00



[主要株価指標]	(売買単位: 100株)
株価 (2019/7/29)	66,750 円
年初来高値 (高値日)	70,230 円 (19/7/16)
同 安値 (安値日)	47,040 円 (19/2/8)
予想 P E R (19.8 予)	41.3 倍
1株株主資本 (PBR算出用)	9,443.6 円
P B R	7.07 倍
予想配当利回り	0.72 %
(1株当たり配当金年480.00円)	
R O E (18.8)	19.4 %
発行済み株式数	10,607 万株